めぐみりアート静岡2020 関連イベント

長楽寺 六道の庭(藤枝)

長船恒利、杉村孝の「石庭」を撮る。

2020年
11月14日(土)〜11月29日(日)

東静岡アート&スポーツ／ヒロバ コンテナギャラリー(土日祝のみ 11時〜17時)
サールナートホール 喫茶コーナー(会期中無休 10時〜17時)

主催＝静岡市　共催＝サールナートホール
問合せ＝(公財)静岡市文化振興財団(054-255-4746)(平日 8時30分〜17時30分)

観覧無料

まちは劇場 ON STAGE SHIZUOKA

文化庁
令和2年度 文化庁 国際文化芸術発信拠点形成事業

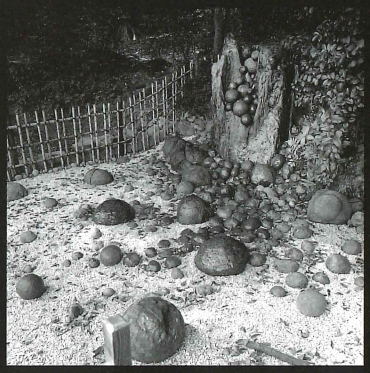
飽波神社 湧霊の庭(藤枝)

地域に根ざした同時代のアートに鋭利な眼差しを向けていた写真家、故 長船恒利は、石彫家として独自の道を切り開いた杉村孝の作品世界にも深い関心を寄せていたようです。この度、長船の残したネガフィルムの中から杉村孝の「石庭」を写した写真群が見いだされました。それを「めぐるりアート静岡 2020」の関連事業として、東静岡アート＆スポーツ／ヒロバのコンテナギャラリーと、杉村孝と縁の深い、サールナートホールにて公開します。

杉村孝 すぎむら たかし

1937年静岡県藤枝市生まれ。石彫家・北川薫に師事。太平洋美術学校に学ぶ。中日展、富嶽文化賞展など数々の美術展での受賞歴をもつ。また、1989年には藤枝市瀬戸谷の不動峡に磨崖仏《不動明王座像》を制作。小説家・小川国夫、また美術批評家・石子順造と深く交友する。数々のわらべ地蔵の制作でも知られる。代表作は定めがたいが、岡部町の《巨石の森公園》と、静岡市に建立され現在所在不明となっている《感動の碑》が挙げられよう。著作に『石屋の小僧が彫刻家になった途々の話』などがある。

飽波神社 湧霊の庭(藤枝)



飽波神社 湧霊の庭(藤枝)

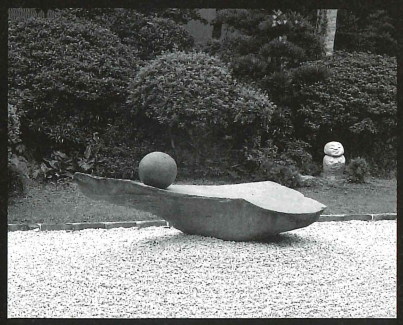
長船恒利 おさふね つねとし

1943年北海道小樽市に生まれ、2009年に永眠。北海道大学にて電気工学を学ぶ。卒業後は静岡で高等学校教員となる。30歳を前後し胃癌で3度の手術を受ける。1974年に写真家として活動を開始。代表作は《在るもの》シリーズ。80年代からは、音のパフォーマンス、コンピュータアート、さらには石彫や中欧のモダニズム研究に取り組むとともに、地域に在住する表現者の活動に深い関心をよせた。「写真論的写真」の典型とされる長船の仕事は没後も、世代を超えて評価されている。

会場1 東静岡アート＆スポーツ／ヒロバ コンテナギャラリー

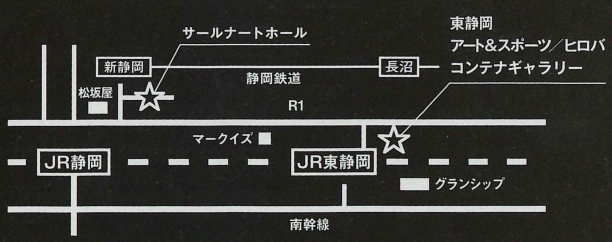
土日祝のみ 11:00〜17:00

2017年、東静岡アート＆スポーツ／ヒロバに、彫刻家・岩野勝人による「アートの秘密基地」、コンテナ・アートベースがお目見えした。40ftコンテナはギャラリーに改修され、「めぐるりアート静岡」等で活用されている。ここでは、長船恒利によって1983年9月から10月にかけて撮影された藤枝市の飽波神社《湧霊の庭》など30余点の写真が展示される。杉村孝が探りあてようとした、「彫刻」の外側に広がる民俗の信仰や祈りのカタチが鮮やかに記述されている。



長楽寺 六道の庭(藤枝)

会場2 サールナートホール

会期中無休 10:00〜17:00

サールナートホールは宝泰寺の檀信徒会館として1995年に開館した。映画ファンの間では、名作映画を上映する静岡シネ・ギャラリーの建物として知られている。建設にあたっては宝泰寺の藤原東演住職によって、静岡に「オリジナルな文化を芽生えさせる場にしたい」との願いが込められたとのこと。小宇宙のような中庭は杉村孝の作品《Sumeru》。さらに宝泰寺の庭園には杉村の《わらべ地蔵》40体余があそぶ。まさに、杉村孝の「石庭」に思いを馳せる場所として、サールナートホールほどふさわしい場所はないだろう。長楽寺(藤枝市)の《六道の庭》など写真18点を展示。